

# 中ガワヒデ鷹 ファゴットリサイタル

NAKAGAWA Hidetaka Bassoon Recital  
The Concert of Tokyo Concerts



© 藤本史昭

超絶技巧を超越し、  
唯一無二の現代ファゴット奏者・中ガワヒデ鷹  
音楽性の限界を更新し続ける  
関東初リサイタル

藤倉大 (1977-) : フォロウイング (2013)  
FUJIKURA Dai: Following

藤倉大 : コーリング (2011)  
FUJIKURA Dai: Calling

坂田直樹 (1981-) : アンテナ (2012)  
SAKATA Naoki: Antena

中村典子 (1965-) : 眞聲 vox verum (2013)  
NAKAMURA Noriko: vox verum

坂東祐大 (1991-) : Transform and Deform (2014)  
BANDOY Yuta: Transform and Deform

フランス、ドイツで研鑽を積んだ日本で唯一人の現代音楽専門のファゴット奏者・中ガワヒデ鷹。音楽性の限界に挑戦する彼のために作曲された3曲に、藤倉大の難曲2曲を加えた超絶プログラム。テクニック、身体の限界に挑戦し続ける中ガワでしか絶対聴くことのできない公演を、お聴き逃しなく!

2017. 4/21 Fri 19:00 start

会場 Tokyo Concerts Lab. (早稲田駅徒歩6分)

一般 2,500円 学生 1,500円

ご予約・お問合せ ▶ 東京コンサーツ  
電話 ▶ 03-3200-9755 (平日 10:00-18:00)  
Web ▶ <http://tocon-lab.com/>  
(公演ページよりお申込みいただけます)

 Tokyo  
Concerts  
Lab.

ドイツでアンサンブル・モダン・アカデミーを修了されたばかりですが、海外の現代音楽事情はいかがですか？

欧米では伝統的なオーケストラやたくさんの演奏家が現代音楽を取り上げていますが、まだクラシック音楽と現代音楽では、演奏者は二極分化されているように思います。オーケストラプレイヤーの現代音楽の演奏も現代音楽のスペシャリストのクラシック音楽の演奏も正直、違和感を感じることがありました。

欧米ですと、アンサンブル等で現代音楽に馴染みのある奏者がいますが、日本だと現代音楽が得意なファゴット奏者というだけで、それがパーソナリティになり得るので、それに留まらず様々な音楽を追求しようという心掛けています。

僕は海外に出るまではクラシック音楽の教育しか受けていなかったのですが、特殊奏法などの演奏技術や楽譜の解釈を独学で勉強しました。ルツェルン音楽祭やパリでの経験、そしてアンサンブル・モダンでの活動など海外ではじめて本格的に現代音楽の教育を受けました。日本でもこれくらい機会があればと思います。自分の現代音楽の技術を次の世代に繋げたいという思いもあります。

今は一周まわって、クラシック音楽への関心が強くなっています。現代音楽を勉強することで、わかるようになったこともあります。特に僕の音楽家としての成長にバツハと現代音楽の往復は欠かせません。

一回のリサイタルでも藤倉さんの曲以外はすべて中ガワさんの委嘱作ですが、今までどのくらいの委嘱（作曲の依頼）をされていますか？

邦人作品はだいたい10曲くらいでしょうか。

かなり委嘱されていますね！それはなぜなのでしょう。新しく作曲をお願いしないといけなくらい、ファゴットのソロ作品は元々少ないのでしょうか。

いえ、ファゴットの進化に繋がる転機がまだあると思うからです。

ロマン派の時代を除き、ファゴットのためのソロ作品はルネサンス時代からたくさんあります。ファゴットの進化の転機となる作品がいくつかありますが、特にパリ音楽院の試験のために書かれた作品など、近代から現代にかけて楽器の進化とともにヴィルトウオジティ（技巧性）が拡大しています。

転機具体例を挙げると、イーゴリ・ストラヴィンスキーの「春の祭典」の冒頭の有名なソロは、音色や音程、ダイナミクスにおいて以降、ファゴットの音に対する要求の水準を引き上げ、多くの音楽家の耳を肥やしたのではないのでしょうか。他にはルチアーノ・ベリオの「セクエンツァII」があります。この作品では特殊奏法が確立され、同時に既存のテクニックの微細な変化にスポットを当てられました。

これらのテクニックは音響的に効果があるので、多くの作曲家がこれらを駆使し作品へと独自に発展させてきました。現代には現代の表現

# 現代音楽を巡る熱い想いを 中ガワヒデ鷹さんに伺いました

があるはずですから、この類の挑戦が尽きることはありません。

ファゴットの進化の転機がまだあるのではないかと考えている理由は、新たな芸術や表現がわれわれを待っているという確信があり、物理的に楽器と肉体の可能性をさらに追及できる余地があると思うからです。また、作曲家（作品）と奏者の関心が当事者だけのものに留まらないことも転機となりうる条件だと思います。

他の楽器に比べてファゴット特殊奏法の可能性は混沌としていて知識の普及が遅れているように思います。そこでボクはパリにいた時に、藤倉大さんのファゴット作品の初演と一緒に聴きにいった作曲家の坂田直樹さんと、特殊奏法の可能性を整頓することから始めました。これがはじめての作品委嘱です。

その当時、ファゴットの限界だと感じた超絶技巧は練習しているうちに簡単に出来るようになってしまいました。たった1人の奏者でさえ特化した技術を使いこなせば、膨大で歴史のある「楽器の可能性」の頂に一石を投じることができると思いました。

まだまだ余裕なので、もっとファゴットの限界に挑戦しようと思います（笑）。

次にこれらの技術のパレットが最初からあれば、作品の構築する上でどのように調理されるかに興味が沸き、坂東祐大さんならおもしろい曲を書いてくれるだろうと確信していましたので委嘱しました。

先ほどもお名前が出ましたが、世界的に活躍している作曲家の藤倉大さんからも厚い信頼を受けられていますが、どのようなところからお付き合いが始まったのですか？

パリで藤倉さんソロ作品「コーリング」の初演を聴いたとき、楽譜が見たいと素直に思いました。そこで日本にも現代音楽を得意とするファゴット奏者がいることを知ってもらおうとメッセージを送ったところ、演奏してみないかと嬉しいお返事がありましたので3日ほど録音を送りまして、そこから一緒させていただくことが度々ありました。

今回演奏する「コーリング」と「フォロウイング」は姉妹作品です。藤倉さんは「コーリング」の素材から発展させて、ファゴット協奏曲を作曲しました（2012年、東京都交響楽団が初演）。そこで使われた素材から、今度はフォロウイングが生まれました。

コーリングは重音（2つ以上の音を同時に出す奏法）の豊かな音が美しい作品である一方、フォロウイングは特殊奏法が使われておりません。2曲とも旋律が美しい作品で異なる世界をお楽しみいただけますよ。

本当は藤倉さんにも委嘱をしたいのですが、すでにたくさんファゴットソロの曲を書かれているので（笑）。

というわけで今回のリサイタルは、ファゴット演奏の限界を更新していくような作品ばかりを演奏しますので、技術だけでなく肉体の限界にも挑戦するような大変なプログラムです（笑）。

## 中ガワヒデ鷹 (中川日出鷹) プロフィール

京都市立芸術大学卒業。パリ地方音楽院、フランクフルト音楽大学大学院、アンサンブル・モダン・アカデミー修了。ルツェルン音楽祭アンサンブルに参加。2014年京都市立芸術文化特別奨励賞。明治安田クオリティオブライフ文化財団海外音楽研修生。国内外の音楽大学でのレクチャーや委嘱作品を含む京都での3回のリサイタル等、現代音楽に力を注ぐ。



今後のトーキョーコンサート・ラボ公演 詳しくはWebへ ▶ <http://tocon-lab.com/>

- ▶ 3月21日(火) 藤元高輝の弦界〜武満徹ギター作品集CDリリース記念〜
- ▶ 4月8日(土)、9日(日) 「il Sole」/Y×S Crossing #01〜杉山洋一 影響を受けた作曲家とともに〜
- ▶ 4月19日(水) 岡村多佳夫が語るモダン・アートへの道 第2回
- ▶ 5月26日(金) 黒田鈴尊 独演会 II Rei-sonic Theater

## Tokyo Concerts Lab. アクセス

〒169-0051 東京都新宿区 西早稲田2-3-18

東京メトロ東西線「早稲田駅」徒歩6分、副都心線「西早稲田駅」徒歩10分

